

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

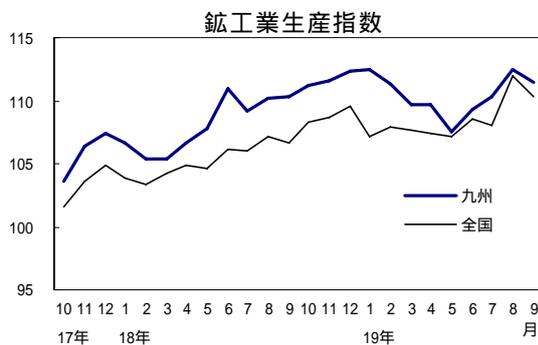
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 19 年 8 月）	今回（平成 19 年 11 月）	
住宅建設	減少	大幅に減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

電子部品・デバイスは、車載向けの高付加価値LSIやデジタルカメラ向けのCCD、ゲーム機向けのカモシ型計数回路（ロジック）などが好調だったことから堅調に推移している。輸送機械は、船舶は高水準の受注残を抱えフル操業を続けており、自動車ではモデルチェンジ効果から輸出向けを中心に好調だったことから、全体でも増加している。一般機械は、自動車製造装置やFPD製造装置は堅調に推移しているものの、半導体製造装置が海外向けを中心に受注がやや落ちていることから、全体では減少している。食料品・たばこは、猛暑の影響から清涼飲料水が大きく伸びたことから、増加している。化学は、前期に大規模な定期修理があった影響でその反動から増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
電子部品・デバイス	14.9	10.4	0.4	3.7	23.8
輸送機械	11.7	8.3	15.0	10.5	7.3
一般機械	11.0	0.5	0.9	0.8	10.0
食料品・たばこ	10.8	1.4	2.4	3.3	2.1
化学	8.5	4.8	2.9	0.8	2.6
鉱工業	100.0	2.2	2.4	3.1	1.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7～9月期は速報値。

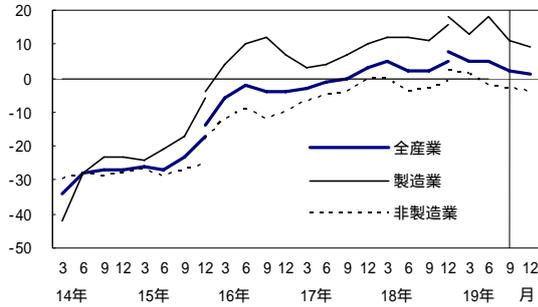
(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

2. 平成19年9月の九州は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

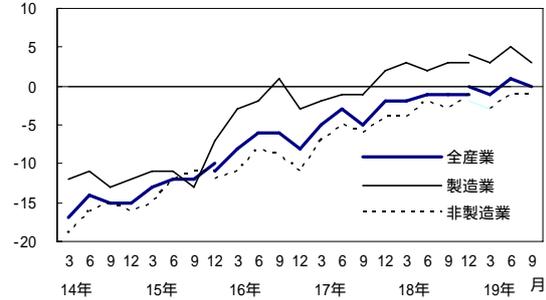
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



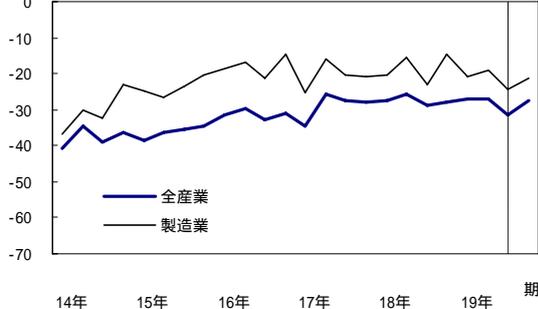
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年12月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「現在の受注量は、3か月前から変化がみられない。特に半導体、大型表示パネル(液晶・PDP)関連の設備の引き合いはほとんど見受けられない(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

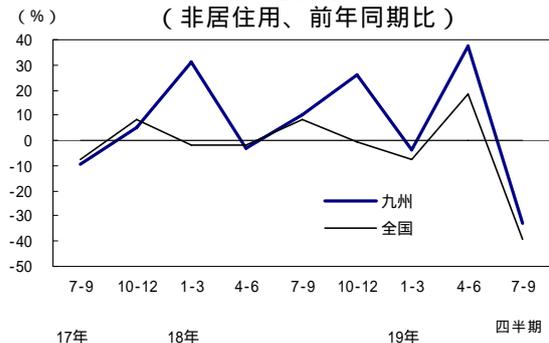
(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	7.7	20.9(1.6)
製造業	13.0	39.8(2.6)
非製造業	3.8	8.7(0.7)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

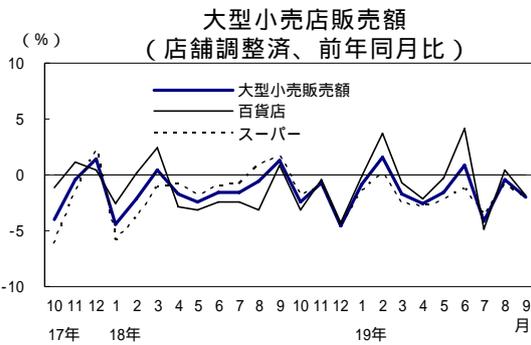
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、クリアランスセール前倒しの影響や3連休に台風があったことなどから全般的に動きが鈍く、前年を下回った。8月は、衣料品は気温が高めに推移したことから秋物衣料の動きが鈍く、前年を下回ったものの、アイスクリームや飲料、UVケア商品などの夏物商材の動きが良かったことから飲食料品、その他の商品が前年を上回ったことから、全体でも2ヶ月ぶりに前年を上回った。9月は、催事効果などから和洋菓子、惣菜、和洋酒など飲食料品の動きは良かったものの、衣料品は記録的な残暑から秋物衣料の動きが鈍く、前年を下回ったことから、全体でも前年を上回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の10月の売上高は前年同月比で2.9%の減となっている。

スーパーは、果物や精肉のほか、非常に暑かったことから飲料、アイスなど飲食料品の動きは堅調であったものの、衣料品の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「食料品の値上げの影響はそれほどない。一方、衣料品は気温が下がらず、購買に結び付かない。客は必要性がないものについては買わないという状況である(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

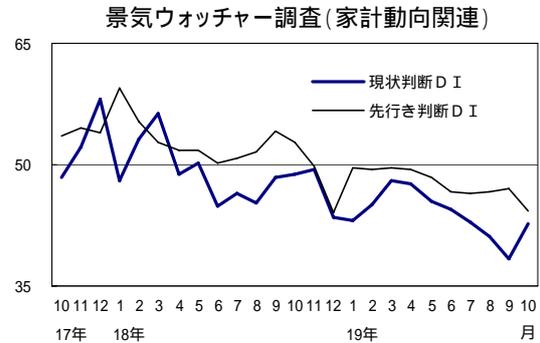
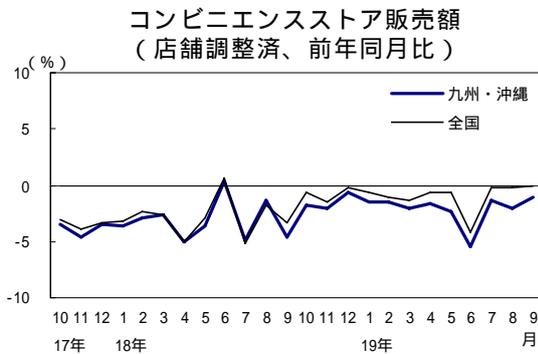


	(前年同期比、%)			
	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.8	0.5	1.1	2.3
百貨店	2.8	0.7	0.5	2.4
スーパー	2.8	1.3	2.1	2.2
コンビニ	1.5	1.7	3.2	1.5
景気ウォッチャー	47.2	45.4	45.9	40.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

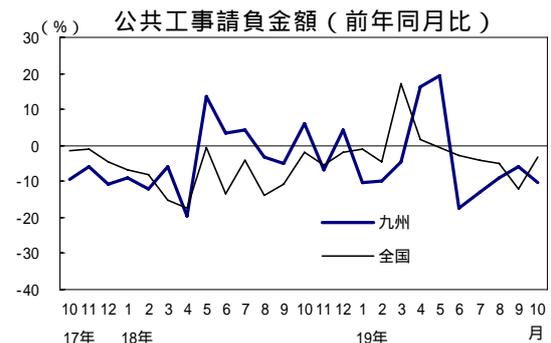
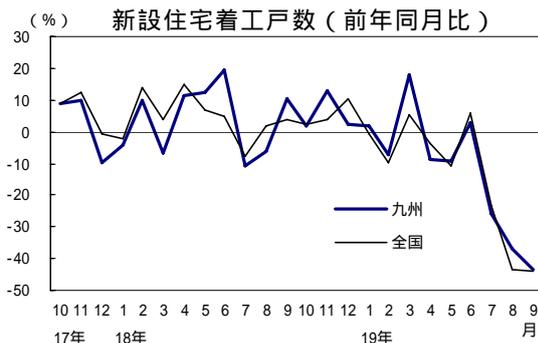
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

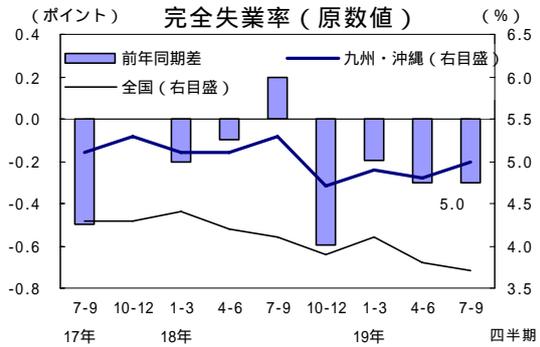
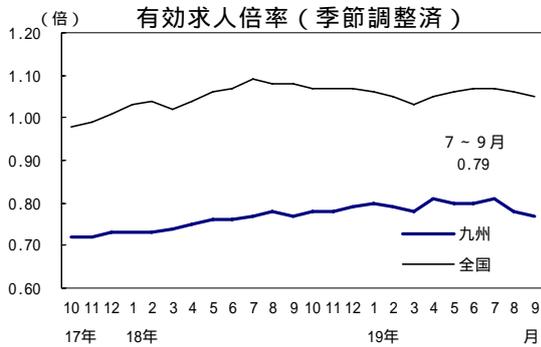


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

「有効求人数、有効求職者数とも前年に比べて増加しているが、正社員の求人が伸び悩み、就職件数に結び付いていない(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

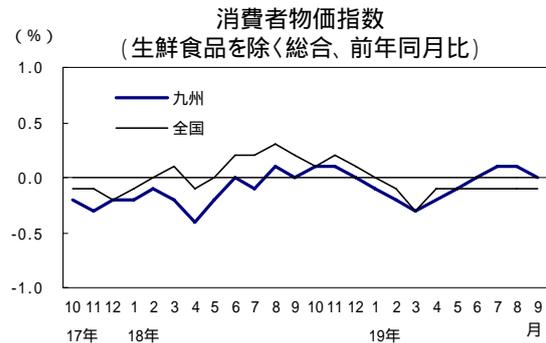
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

10月に倒産件数が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月	19年10月
倒産件数	281	268	326	321	113
(前年比)	18.6	3.5	14.0	19.3	29.9
負債総額	1,038	706	1,010	892	213
(前年比)	25.7	43.9	1.0	84.6	23.7



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・タクシー料金は10%ほど値上げしたが、その分の増収効果は全くなく、前年と変わらない。乗車数がそれだけ落ちており、客の財布のひもは固くなっている(タクシー運転手)

<先行き>

- ・例年であれば、そろそろ大口の忘年会の予約が入ってくるが、大きな団体の予約がほとんど見受けられない(高級レストラン)

景気ウォッチャー調査(合計)

